

BUNGAKUZA TSUSHIN 2026.2 Vol.798

文学座通信

フェフ アンド ハー フレンズ
●アトリエの会『Fefu and Her Friends』

対談 | フェフの物語を探索する冒険

エリーズ・トロン × 添田園子 1~3

公演情報 4

●幕間(まくあい)——高橋紀恵 5

●感謝祭 2025 報告 6

●文学座あれこれ——大笹吉雄 7

●アトリエ短信 8

文学座 3月アトリエの会

FEFU AND HER FRIENDS

フェフ アンド ハー フレンズ

作 マリア・アイリーン・フォルネス

翻訳 / ドラマトウルク 添田園子 × 演出 エリーズ・トロン

3月17日(火)~29日(日)

信濃町 文学座アトリエ

後援=新宿区



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

ARTS COUNCIL TOKYO

助成: アーツカウンシル東京(東京ライブ・ステージ応援助成)

◎二人の出会いとはじまりの時間
——『Fefu and Her Friends』の企画は、
どのように始まったのでしょうか。お二人の出会いから伺えますか。
添田 エリーズと出会ったのは、ACC (Asian Cultural Council) の助成を受けて、ニューヨークに現代演劇の研究・調査に行っていたときでした。二〇〇八年。ちょうどエリーズも同じタイミングでACCの助成をとっていたんです。
エリーズ 私は、京都の和紙造形作家・伊部京子さんと、和紙にまつわる日本の昔話や民話——時代ごとに存在する物語と紙漉きの工程を掛け合わせた『Recycling: washi tales』という演劇作品をつくらうとしていました。その創作過程で園子に会って、出演依頼をしたんです。
添田 『Recycling: washi tales』は四つの物語で構成されていて、私は、水上勉さんの小説をもとにした「名塩川^{なしおがわ}」という越前の紙漉き職人の物語に出ました。
エリーズ ニューヨークで稽古を始めた当初は舞台上に紙漉き道具はなく、マイムで表現していたけれど、実際に道具があったほうがいいという話になって、園子は、伊部京子さんの紙を作っている田村正さんから実際の工程を学んで。同時に園子は、別の大事な役割——日本語と英語という二つの言語を媒介する翻訳を担ってくれたんです。
添田 今回の『Fefu and Her Friends』は日本語で上演しますが、『Recycling: washi tales』は日本語と英語が同時に存在して、二つの言語を使う作品形態だったんです。
エリーズ 他の演者は、キャンレン・カン

デルという素晴らしい俳優と、日本の伝統芸能の方たちでした。その中で園子は、言語の面だけでなく、文学座という西洋演劇の方法に基づいた演技スタイルを使う点でも、非常に大事な立場だった。言語とパフォーマンス、客席と舞台に橋を架ける存在で、本当に素晴らしい演技をしてくれました。
添田 十年間、このプロジェクトをやったんです。日米両国で本も出版しましたね。
エリーズ 日米で十年間の経験を共にしたので、文化交流という観点からも、どのようにお互いに近づくかを学べたし、そこから生まれる喜びもあった。時間をかけて、家族々になっていった感覚があります。
添田 二つの言語を使ったクリエイションは難しい部分もありますが、それはまさに「汗を流す価値がある」ことを教わりました。
——そうした出会いが、今回の企画につながっているんですね。
添田 ええ。もう二十年近く、エリーズと一緒にやってきているんですね。最近では昨年、京都の美術館で『Recycling: washi tales』を小規模に上演する企画もありました。実は、いつかエリーズと文学座で何か一緒にやりたいという思いをずっと温めてたんです。京都で、それをエリーズに話したら「園子、おもしろい戯曲があるよ」と教えてくれたのが『Fefu and Her Friends』でした。
◎『Fefu and Her Friends』の実現へ
添田 エリーズが十四歳のときに観て、演劇の道に進もうと決めたきっかけの

アトリエ短信

『江守徹戯曲集(仮)』刊行のご案内

内外薬品株式会社(本社・富山県富山市、社長・笹山敬輔)が、大衆文化研究に特化した「ケロリンBOOKS」を創刊することを発表しました。そのラインナップのひとつとして『江守徹戯曲集(仮)』を刊行予定(二〇二六年度)です。江守徹が杉村春子に書き下ろした創作劇やシェイクスピアの翻案作品を収録。戦後の演劇界を第一線で牽引してきた著者による初めての戯曲集です。江守徹の演劇人生をたどる小伝や舞台出演一覧のほか、写真も掲載予定。続報をお待ちください。

すみだパークシアター倉×文学座ワークショップのご案内

すみだパークシアター倉と文学座では、演劇を用いたコミュニケーションワークショップを開催します。
◇ 2月25日(水)・26日(木) 18〜21時
◇ すみだパークギャラリーささや

『Fefu and Her Friends』

キャスト8人による
フェフだより
(最終回)

07 上田桃子

エリーズは北風と太陽というなら太陽。愛ある言葉と眼差しに心が開かれ、身体は空間に溶け込み、俳優達のエネルギーが混じり合って膨大な力になる。そこに観客のエネルギーが加わると何が起ころのか。予測がつかない!

08 高橋紀恵

プレ稽古や様々な準備で、座組で集まることがたくさんありました。8通りの佇まいは、そのまま芝居の役へ繋がっているのが透けて見えて、本稽古が始まるのがとても楽しみです。私達の愛する“HOME”でお待ちしております!

◇ 講師 石ヶ森光政(jubilee studio 代表)、富沢亜古、塩田朋子、横山祥二(以上演技部)

◇ 料金 11万円
(消費税込・ドリンクチケット付)

◇ 定員 25名
(※定員になり次第、受付終了)

◇ お申し込みはお名前、お電話番号をメールでお知らせください。
◇ ws.bungakuza@gmail.com
◇ お問い合わせ 03・3351・72658
(11〜17時/土・日・祝を除く)

退座

2025年12月31日付で、演技部の本山可久子が退座しました。

文学座プラチナクラス第16期生オーディション応募締切迫る

プラチナクラスの第16期生オーディション(3月1日)の応募書類の郵送締切は2月18日(水)必着です。オンラインでのお申し込みも可能(2月18日17時まで)。詳細は文学座HPにて。



観劇体験をプレゼント!



「ギフトチケット」について

観劇を希望していても、様々な事情で演劇にふれる機会の少ないご家庭に文学座の観劇体験をプレゼントすることのできる「ギフトチケット」(1口3千円)となります。文学座が提携する子ども支援団体を通じた、今年3年目の取り組みです。

三菱UFJ銀行
四谷支店

普通4360713

(株)文学座切符代金口

ギフトチケットご協力の旨を公演チケットお申込はがきにお書き添えいただき(またはお電話)、左記口座にご送金ください。

出演情報

◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵:『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出) ~2026年末 TBS 赤坂ACTシアター

★石井麗子:『わたしの町』(中津留章仁作・演出) 1/29 ~ 2/8 新宿シアタートップス

★采澤靖起:『ゴドーを待ちながら』(サミュエル・ベケット作、岡室美奈子訳、西本由香演出) 1/30 ~ 2/15 赤坂 RED/THEATER

★沢田冬樹:ミュージカル『十二人の怒れる男』(レジナルド・ローズ原作、五戸真理枝脚本・作詞・演出) 2/6 ~ 15 浅

草九劇

★駒井健介:『2時22分ゴーストストーリー』(ダニー・ロビンズ作、徐賀世子訳、森新太郎演出) 2/6 ~ 3/1 シアタークリエ(日比谷), 3/6 ~ 8 東海市芸術劇場(愛知), 3/12 ~ 16 SkyシアターMBS(大阪)

★鍛冶直人、星智也:『鋼の錬金術師-闇と光の野望-』(荒川弘原作『鋼の錬金術師』「ガンガンコミックス」スクウェア・エニックス刊、石丸さち子脚本・作詞・演出) 2/7 ~ 15 シアターH(東京モノレール「大井競馬場前」駅より徒歩5分), 2/20 ~ 22 梅田芸術劇場

★山森大輔:『ピーターとアリス』(ジョン・ローガン作、早船歌江子訳、熊林弘高演出) 2/9 ~ 23 東京芸術劇場(池

袋), 2/28 ~ 3/2 梅田芸術劇場

★栗野史浩:ミュージカル『レイディ・ベス』(ミヒヤエル・クンツェ脚本・歌詞、小池修一郎演出・訳詞・修辞) 2/9 ~ 3/27 日生劇場 ほか

★石田圭祐、浅野雅博、櫻井章喜、木津誠之、越塚学、常住富大:『大地の子』(山崎豊子原作『大地の子』文春文庫)、マキノゾミ脚本、栗山民也演出) 2/26 ~ 3/17 明治座

★ミュージカル『君といた夏』(瀬戸口郁作・作詞、黒田百合演出) 2/28 ~ 3/1 可児市文化創造センター(岐阜)

★sara:『コーカサスの白墨の輪』(バルトルト・ブレヒト原作、酒寄進一訳、瀬戸山美咲上演台本・演出) 3/12 ~ 30 世田谷パブリックシアター(三軒茶屋)